

令和7年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

学生の身近なリスク「依存症」とその対策

アルコール、市販薬、スマホ、オンラインゲーム、ギャンブル…

私たちの日常生活で身近にあるものによって依存症となる若い世代が増えています。

本セミナーでは、様々な立場から依存症問題に取り組んでいる専門家等を招いて
パネルディスカッションを行い、依存症が学生生活に及ぼす影響や学校における対応について考えます。

開催日時
2025

12/16 火

14:00-
17:00



オンライン開催
(ZOOMウェビナー)

プログラム

■ 開会挨拶

独立行政法人日本学生支援機構 理事

吉野 利雄

■ 挨拶

文部科学省 高等教育局学生支援課 課長補佐

奥井 雅博

■ パネルディスカッション ※質疑応答

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

〈モデレーター〉

松本 俊彦

〈パネリスト〉

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 院長

佐久間 寛之

公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 代表

田中 紀子

十文字学園女子大学 教育人文学部心理学科 准教授

笹倉 尚子

■ 閉会挨拶

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部長

佐藤 稔晃

※プログラムの詳細については、下記のウェブサイトで随時お知らせしますのでご確認ください。

主催

独立行政法人日本学生支援機構

後援

(予定)

文部科学省 / 厚生労働省 / 一般社団法人日本学生相談学会 /
特定非営利活動法人全国大学メンタルヘルス学会

参加申込
(12/5まで)

https://www.jasso.go.jp/gakusei/about/seminar_kikkinkadai/2025.html

※参加申込に必要なログインID等は、各大学・短期大学・高等専門学校へお送りしています。

参加費
無料



学生の身近なリスク「依存症」とその対策

登壇者 紹介

パネルディスカッション

[モデレーター]

松本 俊彦 TOSHIHIKO MATSUMOTO

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院にて臨床研修終了後、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所司法精神医学研究部、同 自殺予防総合対策センターなど経て、2015年より現職。2017年より同センター病院薬物依存症センターセンター長、厚生労働省依存症対策全国センター共同センター長を兼務。日本社会精神医学会理事、日本アルコール・アディクション医学会理事。



[パネリスト]

佐久間 寛之 HIROSHI SAKUMA

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 院長／Sai-DATディレクター

2018年よりさいがた医療センター勤務。多職種による依存症チーム診療部門サイドットを立ち上げる。2022年より現職。アルコール、薬物、ゲームネット、ギャンブル、性依存など依存症全般の診療を行う。多職種連携体制づくり、こどものメンタルヘルス地域ネットワーク構築、院内の倫理観アップデートプロジェクトなど、診療に加えて複数のチームアプローチによるプロジェクトの企画、マネジメントを行っている。



[パネリスト]

田中 紀子 NORIKO TANAKA

公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 代表

祖父、父、夫がギャンブル依存症者で、自身もギャンブルと買い物依存症から回復した。2018年12月 ローマ教皇主催「依存症問題の国際会議」に招聘。2025年3月 国連に日本のギャンブル依存症問題について意見書提出。著書「三代目ギャン妻の物語」「家族のためのギャンブル問題完全対応マニュアル」他2024年映画「アディクトを待ちながら」をプロデュース。



[パネリスト]

笹倉 尚子 SHOKO SASAKURA

十文字学園女子大学 教育人文学部心理学科 准教授
学生総合相談センター副センター長
博士(教育学) 臨床心理士／公認心理師／日本学生相談学会認定大学カウンセラー

専門は臨床心理学。学生相談カウンセラーを非常勤・常勤で経験した後、2022年より現職。現代の若者文化が心の健康に与える影響が研究テーマ。近著に『いま、カウンセラーはゲームに夢中な子どもとどう向き合えばいいのか？一つつながる、わかる、支えるための心理臨床の視点（遠見書房・編著）』がある。

